

総論

満点	120点	目標得点	85点	試験時間	120分		
大問数	5	小問数	49	偏差値	文Ⅰ:76 文Ⅱ:75 文Ⅲ:74 理Ⅰ・理Ⅱ:72 理Ⅲ:77		
【解答形式】		選択式	22/49問	記述式	26/49問	論述式	1/49問
【問題難易度】		C	0/49問	B	23/49問	A	26/49問
※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：読解、リスニング、英作文、文法・語法とあらゆる分野から出題される。
- 2：全体の英文の量が多いので、いかに設問ごとの情報処理をして、問題を解き終えるかが鍵。
- 3：出題形式は一見したところ、毎年同じように見えるが、内容的には多様性に富む。

こんな力が求められる！

120分という時間内で、途中30分間のリスニングが入る。英文を読んでいる途中にリスニングに突入してしまったり、リスニング終了後再び初めから英文を読み直さなくてはいけない。要するに問題ごとの時間配分、情報処理能力を問われている。

設問ごとに見ると、絶対受験生が解けないという難問は出題されていないし、単語レベルも決して高くない。ただ出題傾向が多様で何が出題されてもおかしくないという特徴がある。本年度も2(B)のタイプの問題はここ数年では始めてのものであるし、5(11)も同様である。ただし両方のタイプの問題はともに過去東大の出題を遡れば出されている問題のタイプで、その意味では過去問の研究は必要である。

特徴がないのがまた東大の特徴でもあるが、①問題文内容把握 ②理解したことを相手に伝える日本語力 ③基本的な文法力 この3点は必須。特に①に関しては短時間で情報を処理することが要求される。常に論理を追い論点を明確にさせることが必要である。②は1の要約、4の下線部英文和訳で差をつけることができる。

得点源にしたいのが英作文とリスニング。英作文は本年度は易化したのが、確実に得点できるだけの力を身につける必要がある。③の文法力を基礎にした減点されない英文を心がける必要がある。リスニングは努力がそのまま報われるもの。市販の本で練習することが必要である一方で、音読を繰り返すことで聞く速度と同じ速さで話すことができるようになることも得策のひとつである。

参考図書

『知の技法』（東京大学出版会）

大問別分析

【1】

予想配点	20 / 120点	時間配分の目安	25 / 120分 (Aが15分、Bが10分)
出題内容	読解問題 [Word数] A:291語 B:877語 [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』共にPART2までマスターしていれば問題ない。 [長文テーマ] A:ささやかな発見に満ちた人生について B:万年筆の歴史と収集について		

# Benesse® お茶の水ゼミナール

<b>出題形式</b> A 和文要約論述式 B 段落整序・段落要旨選択式
<b>小問別難易度</b> ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (A) B (B) (1) A (2) B (3) A (4) A
<b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b> 和文要約形式は高3OS英語の授業の中で集中学習する。

## ●解答のポイント&学習対策等

(A) 1988年を除き、前期試験で出題されつづけてきた、英文の「要約」、「要旨」あるいは「趣旨」に関する問題は、文脈把握力と日本語による表現力が端的に問われる。東大合格への第一歩は、この問題形式から、大学が求める学生の能力を真摯に捉えなおすことだと言っても間違いではない。文脈把握力と日本語の表現力は、そうした能力のうちのきわめて重要な二つなのである。

1ペニーコインを道端に置いた幼年期の記憶から人生というものを考える、二段落からなる文章。第一段落は幼年期の記憶が語られているので、「趣旨」に結びつく成分を急いで抽出しようとする、  
「1ペニー」や「お金」といった、まとめにくい語句を取りだしてしまうかもしれない。しかし、その誘惑に耐えて第二段落を読みとおし、そうした語句を「ささやかな発見」といった表現に結晶化できたら、第一関門はまずクリアしたと言える。cultivate「耕す」ことで「発見」する、そんな「健やかな貧しさ」を説くこの文章は、そのまま受験生諸君へのメッセージともとれるだろう。

(B) 問題文は万年筆の歴史と収集に関して。

(1) 中国の筆ではなく、エジプトの「空洞になった葦のペン」こそが万年筆の性質をより備えているはずである。

(2) 段落整序問題は、文脈把握力を問う点で(A)と共通している。指示語や現代の万年筆成立までの時系列をたよりにして考えを進めることになる。文章そのものは平易だが、ダミーの段落を消去しなければならないので、時間との勝負になりそうである。

(3) 「私」に沿ったエピソードが主か、それとも万年筆の製造会社に沿ったエピソードが主か。ここでもやはり、文脈を把握することが重要である。

(4) 「最後の三段落の趣旨」をたずねる問題は、三段落の初めと終わりに着目すれば、解くのにそれほど困難はない。話の細部に埋没せず、当該の段落が要するに何を語るためだったのかを忘れてしまわない、複眼的な読みが求められているのである。普段から情報のみをつまみ出すといったことに終始するのではない、丁寧な読みを心がけたい。

## 【2】

<b>予想配点</b> 26 / 120点 (Aは各8点、Bは各2点)	<b>時間配分の目安</b> 20 / 120分
<b>出題内容</b> (A) 英作文 (B) 文法&語彙	
<b>出題形式</b> (A) 自由英作 (B) 内容一致文作成	
<b>小問別難易度</b> ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (A) (1) B (2) B (B) (1) A (2) A (3) A (4) A (5) A	
<b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b> (A)の自由英作は、OS英語やスポット講座のEnglish Writingで十分な対策がなされている。また、(B)の内容一致文作成の問題は、高1のテキストから取り組むレベルであり、(3)で問われた owing to[due to]は、『完熟』ではPART Oに掲載されている。	

## ●解答のポイント&学習対策等

ここ数年、第2問は(A)(B)ともに自由英作の問題が出題されており、計100語程度の英作文(昨年は15~20語が2題と50~60語が1題)が要求されていたが、今年は(B)が内容一致文作成で実質文

# Benesse® お茶の水ゼミナール

法問題となり、(A) の自由英作も 20~30 語が 2 題と、生徒の作文に対する負担はほぼ半減したといえ、全体に占める作文の比重は大幅に低下した。ただし、この傾向が来年以降も続くかどうかは分からず、東大英作は容易だと先入観は持つべきではない。

(A) の自由英作は、ややテーマが抽象的で、書く内容を思いつきにくい受験生も少なくないと予想されるが、文法・語法上ミスのない英文を書き、確実に得点することが重要である。(B) の内容一致作成問題は、文法問題として極めて基礎的な問題。合格のためには落としてはならず、かつ素早く解答することが求められる。

## 【3】

<b>予想配点</b>	30 / 120 点	<b>時間配分の目安</b>	30 / 120 分
<b>出題内容</b>	長文&会話文 (Listening & Dictation) [Word 数] Part A: 約 540 語、Part B: 約 490 語、Part C: 約 180 語。 [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』共に PART 2 までマスターしていれば問題ない。 [長文テーマ] PART A: 超常現象について PART B: 味覚について PART C: ピークオイルについて 具体的には、PART A: 超常現象を信じる事/信じないことについての講義を聞き、内容の一致した選択肢を答える。Part B: 味覚についての 3 人の会話を聞き、内容の一致した選択肢を答える。PART C: ピークオイルについての講義を聞きながら、5 words 程度のディクテーションが 4 題、という構成である。		
<b>出題形式</b>	A・B は選択記号式、C は記述式。		
<b>小問別難易度</b>	※問題難易度: C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (A) (1) B    (2) B    (3) B    (4) B    (5) B    (6) B (B) (1) B    (2) B    (3) B    (4) B    (5) B (C) (1) B    (2) B    (3) B    (4) B		
<b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b>	OS 英語では高 1 から毎週授業内でリスニング演習を実施している。他のクラスも高 3 夏期講習と冬期講習でリスニング演習の講座が用意されている。		

### ●解答のポイント&学習対策等

Part A:

- (1) 放送文 “Most people would answer no to all these questions” より (イ)。
- (2) 放送文 “On the one hand, ...” からの文で、1 つ目のグループについての説明として “those who automatically believe that all reports of ghosts (中略) are true” とあり、この表現と等価と見なせるので (ア)。
- (3) 放送文 “On the other hand, ...” からの文は 2 つ目のグループについての説明となっている。  
 “automatically” や “must be invalid (must が強調して読まれた)” より、彼らについての特徴として (ア) を選ぶことができる。
- (4) 放送文 “... because they thought it was impossible, they refused to go and see it ...” より (イ) だとわかる。
- (5) 放送文 “... even though hundreds of people saw them in the air, local journalists failed to report it.” より (ウ)。
- (6) 放送文最後の “The most interesting question, then, is perhaps not whether the paranormal exists, but what makes some people so eager to believe that it does.” より (イ)。

[学習対策]

放送文中の言い回しが文意を変えず別の単語で選択肢中にあることがほとんどなので、『でか単』PART 2 レベルの単語は耳にした瞬間に意味がわかるようにしておきたい。使われているのは決して難しい単語ではないので、落ち着いて聞き、リスニングは得点源としたい。

# Benesse® お茶の水ゼミナール

## Part B :

- (1) Susan “Four, isn’t it?” (中略) John “That’s what people used to think, Susan.”より、(ア)。(ウ)、(エ)は John の発言。
- (2) Dave “Well, anyone for a nice cup of poison —I mean— coffee?”からの発言で、苦いものの代表としてコーヒーやビターチョコレートを挙げ、これらを大好きな人々もいると反論している(エ)。can’t get enough of ～は「～をいくら手に入れても十分ではない」。
- (3) John “Umami was actually discovered in Japan about a hundred years ago, but it’s only been accepted in other countries recently.”をほぼそのまま言いかえているのが(ウ)。
- (4) Dave “Lots of mushrooms are poisonous, aren’t they?”に対し、Susan がふざけて“Perhaps you could go and investigate some of them”と返している(ウ)。
- (5) John “It’s a physical feeling, like pain, not a taste.”に対し Dave の“ Oh well, you learn something new every day.”における“you”は John のことを指すわけではなく、「へえ、人間は毎日新しい事を学ぶものだねえ」といった趣なので、ここでは Dave が勝手に新たな知識を得たととらえられる。よって(イ)。
- (4)のように、東大のリスニングではジョークめいたやり取りを含むことが多いので、笑えるくらいの心の余裕を持って臨みたい。

## Part C :

ディクテーションは、聞き取った後に、文法的に合っているかのチェックをおこたらないように。例えば、普段英作文のときには間違えないような時制や主語・動詞の一致や、前置詞の入れ忘れなどに注意。

## 【4】

<b>予想配点</b> 20 / 120 点 (4 - Aは各1点、4 - Bは各5点)	<b>時間配分の目安</b> 20 / 120 分 (4 - Aは5分、4 - Bは15分)
<b>出題内容</b> 4 - A : 文法 & 語法 4 - B : 読解 [Word 数] 4 - A : 129 語 4 - B : 223 語 [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』] 共に PART 2 までマスターしていれば問題ない。	
<b>出題形式</b> 4 - A : 正誤・不適切語指摘 4 - B : 和訳	
<b>小問別難易度</b> ※問題難易度 : C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (4 - A) (1) A (2) A (3) A (4) A (5) A (4 - B) (1) A (2) B (3) B	
<b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b> OS 東大英語の和訳演習を繰り返していけば、下線部和訳については満点を目指すはず。 文法問題については、形が確定してはいない。年によっては整序問題が出題されることも考えられる。 どのような問題が出題されようとも平常授業のカリキュラムを確実に消化していけば合格点を取れる。 『でか単』『完熟』は PART 2 までで十分である。	

## ●解答のポイント & 学習対策等

### ・ 4 - A

5つの短文から不要な語を取り除く問題。

文法・語法の問題という側面だけではなく、文章の内容を理解しなくては得点できない点がポイント。今年の問題であれば、(1)などは明白に文法の知識だけから正解に辿りつくことは可能であるが、(4)などは文章の意味を的確に捉えていなければ正解に到達できない。(5)に関しては等位接続詞の or に敏感になって、この接続詞が何と何を接続しているのかという、文章を読解する基本に忠実になることを東大も要求している。

# Benesse® お茶の水ゼミナール

今年に関しては、それぞれの問題についての難易度はそれほど高くはないので、5題中3問から4問は正解したい。

ただしこの問題にかけることができる時間は5分ほどなので、いたずらに時間を取られて、他の問題にかけられる時間がなくなってしまうようなミスは避けたいところである。

## ・ 4-B

全体として難解な構造や単語は出てきていない。あくまで東大は和訳を要求しているのだから、翻訳のように文の構造等を無視した訳は減点を覚悟するべきである。

下線部は全部で3箇所。

(1)に関しては **concession** を日本語に直すのが難しかった可能性があるが、この単語が動詞 **concede** の名詞形であるということを理解したうえで日本語に訳したかどうかで、点数が分かれてきそうである。

(2)に関しては、あくまでこの下線部の基本は **the kind of laziness** という名詞であるということが採点者にしっかりと伝えられたかどうか、その一点で差がつく可能性がある問題である。

(3) 構造的には何も問題がない文であるが、最後の **the cost** をどのように訳し下したかで点差が分かれる問題であろう。

## 【5】

<b>予想配点</b>	24 / 120 点 ((1)~(10)が各2点。(11)が4点。)	<b>時間配分の目安</b>	20~25 / 120 分
<b>出題内容</b>	長文読解問題 [Word数] 909 語 [『でか単』『完熟』レベル] 『でか単』『完熟』共に PART 2 までマスターしていれば問題ない。 考えようによっては PART 1 まででも大丈夫と言える。単語を知らないと解けない問題は皆無だからである。 [長文テーマ] 「嘘の功罪と、完璧な嘘発見器に対する危惧」についての解説文である。ここ数年続いていた小説文から変更があった。		
<b>出題形式</b>	小問ごとにいくと、(1)(2)(7)(8)は本文中への空所補充記号式、(3)は本文中への空所補充語整序記述式、(4)(6)は下線部の意味を問う記号式、(5)は下線部訳、(9)は文脈に沿った語の意味を問う記号式、(10)は文脈に沿った語の意味を問う記述式、(11)は本文の要約文の空所補充記述式、ただし実質は記号式と変わらない。		
<b>小問別難易度</b>	※問題難易度：C 難問、B 可否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (1) A    (2) A    (3) B    (4) A    (5) A    (6) A (7) A    (8) A    (9) A    (10) B (11) a-A    b-A    c-A    d-A		
<b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b>	毎年そうだが、本問は、東大の英語の問題で高得点が見込める問題で、一言で言えば易しい問題である。したがってお茶ゼミのテキストで言えば、高2のOS英語(早慶・東大)でも十分高得点する学力は培える。高3 OS 東大は言うに及ばず(お釣りがくる)、Advanced 国立英語でもこの問題に関しては十二分である。『でか単』および『完熟』は PART 2 まででよい。上記出題内容でも触れたが、PART 1 でも対応できると言える。		

## ●解答のポイント&学習対策等

本文の内容は「嘘の功罪と、完璧な嘘発見器に対する危惧」についてである。読みやすい平易な文章である。小問を一つ一つ見ても取り立てて難問は見当たらないように思える。(5)の下線部訳も東大の問題とは思えないほど簡単である。したがって本問は確実に高得点すべき問題で、これをぼろぼろ落とすようでは合格はおぼつかないと言わざるを得ない。ただし(3)の語整序の問題は It is...to tell の It...to 構文に気

# Benesse® お茶の水ゼミナール

づかないと難しく感じるかもしれない。「何が嘘で何がそうでないかを見分けるのは、我々が思うよりずっと難しい」という文意を瞬間に察知できるかどうかのポイント。